

平成29年度静岡大学技術部全体技術研修：応急救命講習の報告

| | |
|-----|---|
| 著者 | 竹内 州, 中本 順子, 市川 佳伸 |
| 雑誌名 | 技術報告 |
| 巻 | 23 |
| ページ | 45-46 |
| 発行年 | 2018-03-23 |
| 出版者 | 静岡大学技術部 |
| URL | http://doi.org/10.14945/00025274 |

平成 29 年度静岡大学技術部全体技術研修

-応急救命講習の報告-

○竹内州、中本順子、市川佳伸
静岡大学 技術部企画委員会

1. はじめに

静岡大学技術部全体技術研修が静岡キャンパスでは平成 29 年度 9 月 11 日に、浜松キャンパスでは平成 29 年 9 月 13 日に開催した。今年度の全体技術研修のテーマは安全衛生に決まり、前回の講習から時間が経ったこと、職員の防災意識を高める目的で応急救命講習が研修として選ばれた。本報告では静岡、浜松で行われた講習の内容（座学、実習）について報告し、救命活動の重要性について改めて紹介する。

2. 研修日程

2.1 静岡キャンパス

日程：平成 29 年 9 月 11 日（月）

会場：静岡キャンパス 保健センター内フロア

講師：静岡大学保健センター 産業医・保健師・看護師 3 名

参加者：13 名



図 1 保健センター

2.2 浜松キャンパス

日程：平成 29 年 9 月 13 日（水）

会場：浜松キャンパス 佐鳴会館ホール

講師：浜松市消防局 警防課 救急管理グループ職員 3 名

参加者：19 名



図 2 佐鳴会館

3. 研修内容

3.1 静岡キャンパス

- ・応急救護総論（大学での事故事例含む）
- ・心肺蘇生法及び AED 実技訓練
- ・作業中の怪我の対応

3.2 浜松キャンパス

- ・応急手当講習
- ・成人に対する心肺蘇生法（人工呼吸、胸骨圧迫）
- ・AED を用いた除細動



図 3 講義の様子

4. 当日の流れ

静岡と浜松で研修の内容に差異はあるが、前半に座学による応急救命の重要性と心肺蘇生法の解説、後半に心肺蘇生法及び AED を用いた実技は共通して行われた。これらの内容について次に述べる。

5. 応急手当

5.1 応急救命の必要性

救急隊や病院の医師による高度な救命処置（二次救命）へと繋げるためには、発見者の素早い通報と応急手当（一次救命）が必要となる。心臓停止の状態では処置無しの場合、わずか3分で生存率は50%を切ってしまう。通報から救急車の到着までの時間は全国平均で8.4分（平成28年）であり、生存率を上げるためには応急手当が非常に重要になる。

5.2 AEDについて

AEDとはAutomated External Defibrillatorと呼ばれる自動体外式除細動器である。心臓が痙攣を起こし血液を流すポンプ機能が失った状態（心室細動）に使用される。電気ショックを与えることで一時静止させ、正常な拍動の再開を促すことができるが、呼吸が停止している酸欠状態だと自然に拍動を再開することは難しい。このため心肺蘇生が必要である。

5.3 心肺蘇生法

心肺蘇生は胸骨圧迫と人工呼吸の繰り返しから成る。AEDが到着するまで止めることなく行い、AEDを使用した後も傷病者の回復が見られない場合は、救急隊が到着するまで心肺蘇生を続ける。

5.3.1 胸骨圧迫

強く（胸が5cm沈む程度）速く（100~120回/分）絶え間なく（中断を最小）を心がける。実際に体験するとかなりの労力になることがわかり、交代する等の柔軟な対応が必要であることがわかった。

5.3.2 人工呼吸

傷病者の鼻をつまみながら1回1秒のペースで息を吹き込み、胸が上がることを確認する。胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を1セットと考えて繰り返す。



図4 実技の様子

5. まとめ

今回の研修により応急手当の重要性について詳しく学ぶことができた。機器を使用した実技を受けることで、初めて体験した人には勿論のこと以前に受けたことがある方にも改めて学び直すよい機会だと感じた。多くの人が行き交う大学という場所で職員が応急救命講習を受けることは、災害等の不測な事態に対応するためにも大切であると考えます。今後も定期的な開催をすることによって応急救命の技術を維持していきたい。

6. 謝辞

本研修を開催するにあたり、講義を担当して頂いた静岡大学保健センター産業医准教授森俊明氏、看護師加治由記氏、保健師野上愛里子氏、浜松市消防局警防課救急管理グループ職員の皆様に感謝申し上げます。